



★日本緩和医療学会学術大会に参加してきました★

6月19日20日に、横浜で開催された日本緩和医療学会学術大会に参加してきました。当院からも、以下の演題でポスター発表してきました。

＜演題名 演者＞

- ① 伊藤 『緩和ケア病棟での多職種カンファレンスの一つである「オープンファンファレンス」開催に対するアンケート評価』
- ② 志津 『肺癌終末期に対する持続的鎮静の現状 一般病棟と緩和ケア病棟との比較』

今回は、鎮痛剤の使用に焦点を当てて聴講してきました。

トラマドール徐放錠ができて、WHOの第2段階の薬剤でも徐放錠とレスキューのセットで使うことができるようになったり、タペンタドールのように今後WHOの第3段階のファーストチョイスとして使用する薬剤ができたりと、疼痛緩和の薬剤の選択肢がふえました。今後はどのような痛みに対してどの薬剤を選択してどう使うかをより丁寧に考えていく必要ができたと感じます。

しかし一方で、学会開催期間中にオキシコドン不正輸入によるトヨタ役員逮捕のニュースもありました。NHKのニュースでも、アメリカではオキシコドンが鎮痛剤として簡単に処方され、それによって依存症が有名人にも蔓延していると伝え、そしてオキシコドン(?)の粉末を、鼻からストローで吸引している映像を写し、オキシコドンが、覚せい剤と変わらない麻薬であるかのような印象を与える内容でした。また、オキシコドンは、日本ではがん患者の鎮痛に正しく使われていること、オキシコドンの適正な使用は痛み治療に必要であることへのコメントがなく、いたずらにオキシコドン使用への不安をあおるような印象を受けました。

このようなニュースによって、オキシコドンを処方されているがん患者に対する偏見や、使用を拒否する患者家族が現れないことを願っています。医療者にはより正確な説明が求められることになると思います。

第2回緩和ケア勉強会を行いました★

平成27年度、第2回目の緩和ケア勉強会を6月11日に行いました。

今年度のテーマは『症例に学ぶ ～多施設・多職種で関わる緩和ケア～』です。毎回、緩和ケア病棟や緩和ケアチームを通じて多施設で関わった事例をとり上げ、それぞれの立場からの発表をいただいています。

第2回目の勉強会では、「下顎歯肉癌・認知症患者の終末期」～多職種カンファレンス後経口摂取を尊重し在宅療養へ移行した事例～というテーマでデスカンファレンスを行いました。院内38名、院外47名、合計85名という大変多くの方にご参加いただきました。在宅療養へ移行するまでの経過や、在宅へ帰ってからの様子などの話の中で、たくさんの学びを得ることができました。



*7月は勉強会はありません。次回開催は8月20日(木)です。